

腫瘍内科 研修カリキュラム

【科の紹介】

乳癌に対する薬物療法を積極的に行っています。標準的な化学療法を安全に、出来るだけ高いQOLを維持しながら続けられるように治療を計画しています。また、緩和ケアチーム・社会事業部との連携を大切にしています。

A. 一般目標

悪性疾患の治療は腫瘍の性質(乳癌の場合:異型度、ホルモン受容体やHER2 過剰発現の有無など)、病期、併存疾患、Performance status、患者さんや家族の希望などを考慮することが大切である。抗がん剤治療の適応、有害事象、その限界を理解し、悪性疾患を診療する際の基本的な態度を身につける。

B. 行動目標

1. 病態・治療

- 1)乳癌の疫学、診断、治療の基礎を理解し、説明できる。
- 2)組織診断、画像所見などの意味を理解し、説明できる。
- 3)手術、放射線、抗がん剤などそれぞれの治療目標を理解し、説明できる。
- 4)抗がん剤治療の適応、レジメン、効果、有害事象などを理解し、実践できる。
- 5)胸腔穿刺、腹腔穿刺を実施できる
- 6)チーム医療の重要性を理解し、スタッフと協力して診療できる。
- 7)全人的な苦痛を理解し、ケアすることができる。

2. 適切な診療録を作成することができる

3. 経験すべき症候・疾病・病態

1)経験すべき症候

外来または病棟において、下記の症候を呈する患者について、病歴、身体所見、基本的な検査所見に基づく臨床推論と病態を考慮した初期対応を行う

a. 終末期の症候

C. 指導体制

1. 腫瘍内科医師は指導責任者として、ローテーション期間を通して研修の責任を負う
2. 患者の診察、検査、治療に関する直接的指導は主治医(指導医)が行う。
3. 定期的に研修医の研修目標達成の進捗具合を点検し、適切に研修医に指示を与えるか直接指導を行う。

D. 研修方略

1. オリエンテーション

- 1)研修カリキュラムの説明
- 2)腫瘍内科の概要
- 3)受け持ち患者の割り振りと患者説明

2. 病棟研修

- 1) 受け持ち患者の診療: 毎日、身体診察及び神経診察を行い、患者の状態を把握する。必要に応じて夜間・休日も診る。
 - ・朝 8 時 30 分に医局に集合し、担当患者を振り分けられる。
 - ・受け持ち患者の診療状況を常に指導医・研修協力医に報告し、病状の把握に独断のないよう努める。必要とあれば、他科の指導医にも躊躇無く指導をうける。
- 2) 胸水・腹水の穿刺やドレナージ、中心静脈カテーテル留置などは指導医・上級医のもとに実施する。
- 3) カンファレンス・回診に参加し、検査適応・治療方針を理解する。
- 4) 化学療法・輸血療法・感染症管理など病棟、カンファレンスで経験する。
- 5) Oncologic Emergency 症例患者があればその初期対応に参加する
- 6) 診療記録を行う: 毎日、必要に応じて夜間・休日を行う
- 7) 診療記録(カルテ、サマリー、診断書、紹介状など)作成後は、指導医・上級医に確認してもらう。

3. 外来研修

必要時、外来担当医の指導の下に、問診、診察、検査処置、投薬を行う。また、上級医と協議し、治療方針を立案する。

4. 病理検討会、症例検討会に参加する。

【カンファレンス・学会】

- 1) 定期的に行われるカンファレンスに出席する。
- 2) 症例報告会、研修会、学会にも積極的に参加する。

【定例検討会】

第1火曜日17時～多職種(医師、看護師、薬剤師)による症例検討会を行う。

毎週水曜日 16:30～血液内科・感染症内科・呼吸器内科・腫瘍内科での検討会あり。症例があれば提示する。

第1・3火曜日 16:30～17:00 多職種(医師・看護師・薬剤師・MSW)による検討会を行う。

【定例研修会等】

癌チーム医療研究会	中瀬一則	津	年1回
三重乳癌薬物療法研究会	水野聡朗	津	年1回

E. 研修評価チェックリスト

- 乳癌の疫学、診断、治療の基礎を理解し、説明できる。
- 組織診断、画像所見などの意味を理解し、説明できる。
- 手術、放射線、抗がん剤などそれぞれの治療目標を理解し、説明できる。
- 抗がん剤治療の適応、レジメン、効果、有害事象などを理解し、実践できる。
- 胸腔穿刺、腹腔穿刺を実施できる
- チーム医療の重要性を理解し、スタッフと協力して診療できる。
- 全人的な苦痛を理解し、ケアすることができる。
- 適切な診療録を作成することができる